

平成 24 年 3 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社 サンオータス
 代表者名 代表取締役社長 北野 俊
 (JASDAQ・コード7623)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 古川 晴男
 (電話・045-473-1211)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 6 月 20 日に公表した平成 24 年 4 月期の通期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 24 年 4 月期通期連結業績予想の修正 (平成 23 年 5 月 1 日～平成 24 年 4 月 30 日)

(単位：百万円、円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	33,000	350	300	150	47.15
今回修正 (B)	34,800	100	100	20	6.29
増減額 (B-A)	1,800	△250	△200	△130	—
増 減 率	5.5%	△71.4%	△66.7%	△86.7%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 4 月期)	31,652	314	280	126	39.90

(2) 平成 24 年 4 月期通期個別業績予想の修正 (平成 23 年 5 月 1 日～平成 24 年 4 月 30 日)

(単位：百万円、円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	19,500	10	140	80	25.15
今回修正 (B)	20,000	△220	△10	△40	△12.57
増減額 (B-A)	500	△230	△150	△120	—
増 減 率	2.6%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 4 月期)	17,692	△31	143	112	35.44

2. 修正の理由

(1) 連結業績

連結売上高につきましては、燃料油販売部門では原油価格が高値圏で推移したことにより燃料油販売単価が当初計画を上回り、売上高の上振れ要因となりました。一方、SS (サービスステーション) の主力商品であるガソリンは、震災の影響や消費マインドの後退による需要の縮小に加え、消費者の公共交通機関の利用促進や低燃費車の普及などエネルギー節約指向の高まりによって販売数量の大幅な減少をもち、売上高も下振れましたが、大口需要家向け軽油・灯油類の販売数量増加によってカバーできる見通しとなりました。

しかしながら、中東を巡る地政学リスクの高まりが、原油価格及びこれに連動する燃料油価格のさらなる上昇を招き、一層の需要後退をもたらすという懸念材料が存在し、売上高、利益に対し不確定な要因を含んでおります。

また、輸入車ディーラー部門ではBMW車の売上高が計画を上回ったものの、フォード車及びジャガー車の売上高の未達部分を補うに止まり、ほぼ計画通りとなる見通しです。

レンタカー事業部門では、レジャー等への自粛ムードの高まりや短距離・短時間利用へのシフトが顕著になるなど、個人需要の後退により苦戦を強いられましたが、店舗新設等の効果もあり、ほぼ計画通りとなる見込みであります。

その結果、連結ベースの売上高は前回予想を上回る見通しとなりました。

利益面では、燃料油販売部門及び輸入車ディーラー部門ともに同業他社との価格競争及び輸入車ブランド間における販売競争の激化により販売利鞘・マージンが予想以上に悪化したこと、輸入車ディーラー店舗の新設及びリニューアル、レンタカー営業店舗の新設とEV（電気自動車）、ハイブリッド車等の環境負荷を低減させる高額車両の積極的導入等の初期投資が先行したこと、更には、積極的な広報宣伝活動を展開したことから原価と販売コスト（設備投資負担及び経費支出）が増加した結果、営業利益及び経常利益は前回予想を下回る見込みであります。

また、上記設備投資に関連した固定資産除却損失等の影響もあり、当期純利益については前回予想を下回り、20百万円を計上する見込みであります。

（2） 個別業績

個別売上高につきましては、燃料油販売部門では連結業績と同様の要因により前回予想を上回る見通しとなりましたが、輸入車ディーラー部門では、フォード車及びジャガー車の販売が新車種の投入も少なく、平成23年12月に新規に取扱いを開始したプジョー車の販売も当期業績への寄与は限定的であり、計画を下回る見通しとなりました。

レンタカー事業部門は前述のとおり計画どおりとなる見通しです。また、環境対策の一環として取り組んでいる環境車検の取扱い及び自動車エンジン洗浄機器類の販売も計画通りとなる見込みであります。

その結果、個別の売上高はほぼ計画通りとなる見込みです。

利益面につきましては、SSにおいては採算販売を心掛けた販売方針で臨みましたが、販売店間の厳しい価格競争の結果、仕入原価の上昇やガソリン販売数量の大幅な未達成と燃料油（ガソリン及び軽油）販売における利鞘の低下が主な要因となって営業利益並びに経常利益は前回予想を大幅に下回る見通しとなりました。当期純利益については、固定資産の除却等に伴う特別損失の計上もあって、前回予想を下回り、40百万円の当期純損失を計上する見込みであります。

（注）業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上